

雪と氷の静寂な世界

南アルプス 戸台川赤河原周辺アイスクライミング

岩田、小暮、藤岡

【日時】2008年2月9日～11日

【メンバー】L岩田、小暮、高橋、藤岡、笹川、S（会外）

2月9日（土）

1月に訪れたときは雪が全くなかった戸台の駐車場にもかなりの雪が積もっていた。そのときは雨で川が増水していて徒渉に苦労したが今回はそういうことも無く順調に丹溪山荘に着いた。先客は誰もおらず今回も中にテントを張らせてもらった。テントを張り終えまじは舞姫の滝を目指す。小屋を出ると雪が降り始めた。それもかなり降っている。

滝までのトレースはかすかに残っているだけで膝くらいまでのラッセルになった。1月に来たときは全く凍っていなかった舞姫の滝もさすがに凍っていた。しかし雪がかなり積もっていて登りにくそうではある。岩田、高橋、Sそして小暮、笹川、藤岡の2組に分かれ登り始めた。F1、F2とも4～5mくらいで難しくはないが雪がかなり積もっていて払うのに苦労する。F2からF3までは腰上のラッセルとなり苦労するが滝は良く凍っていた。しかし、雪が予想以上に降っており時間も無いことから滝を見るだけにここで引返すことにした。帰り道は雪で消えかけていた。



（文：岩田）

2月10日（日） 舞鶴ルンゼ 岩田、高橋、S

この日も2パーティーに分かれた。昨夜からの雪は朝には止んだが昨日以上に積もっている。舞姫の滝までは昨日の踏跡がかすかに残っていたがそこから先は完全にラッセルになってしまった。雪は腰まであり場所によっては胸まである。ワカンなど持ってきていないので一歩だすごとに体が沈みなかなか進まない。ルンゼの出合からはさらに傾斜がきつくなりこれまで以上にラッセルがきつくなる。滝は目の前に見えているのになかなか進まないこのもどかしさ……。滝の基部に着くまで3時間半かかってしまった。雪が無ければ1時間弱で着くのだが……。今回の雪深さには驚きである。

1月に来たときは全く凍っていなかった舞鶴ルンゼもなんとか凍っていた。岩田リードで取り付くが氷の上に雪が凍り付いていてスクリュウが決めにくい。ねじ込んでも中はスカスカでセットする場所に苦労する。ここで思った以上に力を使ってしまいフィフィのお世話になった。なんとか下部10mの氷柱状を通過したがその先、傾斜が緩くなっても気は抜けない。ここも同じく氷はスカスカで雪がかぶっていてバイルを打ち込むたびにバリバリと剥がれていくなんとも不快である。緩い傾斜が思ったより長く疲れた。ほぼザイルいっぱい滝上の灌木にたどり着きここでビレイ。フォローで高橋さん、Sさんが登る。ビレイしている

最中に遠くで雪崩の音が聞こえた。

3人とも登りきり次なるF2を目指すかやはりまたもやラッセルである。しかし、高橋さんはこのラッセルが楽しいようで非常に元気にラッセルのトップを進んでいった。ラッセルもたまにやると確かに楽しい。距離にすれば100mくらいであるが胸までのラッセルで1時間くらいかかった。F2は10mの幅広の滝である。初心者がリードの練習をするには最適そうである。ここも岩田リードで登り高橋さん、Sさんがフォローで登る。1本だけ登り往路を引返して小屋に戻った。この日は高橋さんのカメラが故障してしまったために写真はなし。うーん、残念。

(文：岩田)

2/10(日) 歌宿沢大滝 小暮、笹川、藤岡

今日は小暮、笹川、藤岡3名は歌宿沢へ向かう。昨夜の降雪は70cm程度あり、登山道はおおむね膝下のラッセルが続く。丹溪山荘から歌宿沢出合いまで50分を要した。

1月に来たときには沢筋には全く雪はなくガレを登っていったのだが、今回は出合いからラッセル。前回ガレ場を2時間近く歩いたのでこの雪ではどれだけかかるか気が重いが、ここまで来たらまた引き返すのも時間がかかる。

歩き始めてからしばらくは膝上程度で、底のあるラッセルだったのでそれほど苦労はない。この調子なら案外簡単に行けるかと思ったのが甘かった。しばらくすると腿くらいまで潜るようになる。沢筋は大きなゴロや倒木があり歩きづらいので側壁の草付に逃げる。それでも時々沢床を歩かざるを得ず、ひどいところでは胸まで潜って、もがけばもがくほど体が沈んでゆく。つぼ足ラッセルがこれほど大変だとは思わなかった。小暮さんがアイゼンをつけて右岸の岩場・草付きに取り付いてトラバースをしてようやくペースが上がる。私はアイゼンをつけていなかったもので、小指もないような枯れた枝と岩にバイルを効かせて強引に這い上がって行き、やっとのことで5mほどのF1へ到着。



その後もラッセルは続くがラッセル2号?の小暮さんがグイグイトレースをつけて、歌姫ノ宿の取り付きに付いたが、なんと出合いから4時間のラッセルでした。



歌姫ノ宿は前回1月に訪れたときよりも発達している。前回はフォローでそれほど苦労せずに登れたので今回はリードさせてもらう。

が、ラッセルと草付きで疲れてしまって、どうしても腕に力が入らない。3本ほどスクリューを打ってさらに上がろうとしたが腕がパンプしてしまったので、スクリューを打ち足して降りる。そこからは小暮さんに代わってもらいトップロープをセットして練習する。かなり硬い氷で丁寧にバイルを打たないと表面がすぐに

割れてしまう。アイゼンも思うように決まらずなかなか苦労させられた。2人連れの後続パーティが現れ、上ニゴリ沢に行こうとしたがラッセルが厳しくて引き返してきたとのこと。トレースのあるこちらに変更したとか。我々が終了してから登っていましたが、リーシュレスに薄い手袋で安定した登りで参考になりました。（文：小暮、藤岡）

丹溪山荘(6:05)～歌宿沢出合(6:55)～歌宿ノ宿(11:00)～登攀終了(14:30)～歌宿沢出合(16:00)～丹溪山荘(17:00)

2月11日（月） 舞姫の滝 岩田、高橋、S

1日目に中途半端で終わってしまった。舞姫の滝を再び目指した。

1日目よりさらに雪が積もっていてさらに登りにくくなったF1、F2を越え、F3を目指す。F2より上はやはりラッセルだった。1日目は雪でかすんでしまい滝が良く見えなかったが近づいて良く見ると立派である。左右とも凍っており美しい。左はツララの集合体で日があたるためか水氷っぽくて手ごわそう。右はきれいな氷の壁となっていて取り付きやすそうだったので右に取り付く。



今日も岩田リードで登り始める。出だしはほぼ垂直だが氷はそれほど硬くなくて思ったより難しくはない。前日の舞鶴ルンゼの氷が悪かったので安定した氷に安心する。しばらく85～90度の傾斜が続くがスタンスが安定していて快適な登りである。傾斜が緩やかになるとあとは上部の灌木を目指しビレイをとった。久々の快適なリードだった。続くフォローの高橋さんも難なく登りきった。



最後はSさんだが10mほど登ったところでテンションがかかった。しばらくロープが動かず姿も見えないので心配していると「降ろしてくれ」との声。ケガでもしたのかと心配になりSさんをそのまま降ろし懸垂で降りた。見ると落ちたときにバイルが氷に刺さったままリーシュから手がぬけてしまったようだ。懸垂で下降しながらバイルを回収しSさんには再び登ってもらった。ケガがなくてなによりだった。

3人とも降りてきて左を登ろうか迷ったが、日が当たり始めて脆くなっているだろうし時間もギリギリだったのでここで打ち切り下山となった。

三日間で登った滝は決して多くはなかったが一本一本が充実していた。ラッセルに苦しめられもしたが深い雪を掻き分けて滝を目指すというのもなかなか楽しかった。これこそが自分が求めていたアイスクライミングでは？そう感じた3日間だった。（文：岩田）

2/11(月) 舞鶴ルンゼ 小暮、笹川、藤岡

小暮、笹川、藤岡で舞鶴ルンゼに向かう。岩田さん達の昨日のトレースのおかげで約1時間で到着できた。

F1 40mは小暮さんがリード。出だしの10mほどがほぼ垂直。一見足場がありそうに見えたが思いの外苦勞している。その上は下から見ると70度くらいに見えたのだが、そこも結構時間をかけて登っている。

藤岡がセカンドで登る。取り付いてすぐにわかったのだが、朝一で気温が低いこともあるが、氷が非常に硬い。ステップに見えたところも登ってみるとあまり安定しておらず、バイルもアイゼンも簡単には決まらない。苦勞しながらスクリュを回収して傾斜の緩む上段に上がったのだが、なんか変。ここからは傾斜が落ちて、落ち着いて登れると思いついていたのだが、下部の垂直と比べると緩くなっているだけで80度くらいはある。聞いてないよ～、と思いながらこれまた慎重に登る。40mは長い長い。やっとこさビレイ点まで着いて一安心。ビレイ点からは対岸の麒麟の首とおぼしき氷柱が見事に見える。



F2は幅広の15m。ここは藤岡がリードさせてもらう。一番簡単そうな凹角部分にこれでもか～というくらいスクリュを打ってしまった。左右の灌木に支点を取りどちら側も登れるようにTRをセット。各自2回ずつ練習できた。昼になって気温が上がってきたせいか手も冷たくならず、氷もほどよくバイルが刺さる。TRなので立っているところを選んで登るが快調に登れた。氷の状態でも同じ角度でもこれほど違うものか。今日は下山なので大急ぎで懸垂をして小屋へ戻りました。

二回の三連休に続けて戸台に来ましたが、今回は雪も多くて長時間のラッセルあり、氷の付きも良く、とても充実した三日間でした。

(文：小暮、藤岡)



丹溪山荘(6:05)～舞鶴ルンゼ取付(7:10)～登攀終了(12:20)～丹溪山荘(12:55/13:25)～登山口(16:00)